

平成 18 年度 生態系を把握するための野生生物の知見全国大会について

1. 趣旨

人間の社会活動に伴い排出される化学物質等による野生生物への影響を評価するに当たっては、野生生物の継続的な観察による本来の生態系の把握が必要である。

すでに国内各地では様々な野生生物の観察が永年にわたって行われ、その蓄積された情報を集約する場づくりとともに、基礎情報データの蓄積、観察者間における円滑な情報交換やネットワークの形成が急務となっている。

このため、今年度から「生態系を把握するための野生生物の知見全国大会」を開催する。なお、今年度は、事業初年度であるため、試行的に実施するものとする。

2. 実施計画

(1) 生態系を把握するための野生生物の知見全国大会

日時：平成 18 年 8 月 26 日（土） 10：30～15：30

場所：環境パートナーシップオフィス会議室

（東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 B2F）

(2) 大会後のネットワークづくり

(3) 野生生物の生物学的知見検討会へ報告

(4) 必要に応じて専門家を現地調査へ派遣

3. 事業概要

(1) 観察活動の実態把握が本事業の主な目的である。（観察の支援を行うものではない。）

(2) 本会の成果は野生生物の生物学的知見検討会に報告する。

(3) 必要に応じて適任の専門家を現地調査へ派遣する。当面の指導委員は下記のとおりとする。

< 指導委員 >

青山 博昭	残留農薬研究所毒性部副部長兼生殖毒性研究室長
井口 泰泉	自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター教授
斉藤 秀生	自然環境研究センター
戸田 光彦	自然環境研究センター
花里 孝幸	信州大学山地水環境教育研究センター長
福井 行雄	広島県立広高等学校教諭
安間 繁樹	農学博士（哺乳動物生態学研究者）